

平成30年度 吹田市教育研究大会報告

平成30年11月22日発行 吹田市教育研究大会事務局

8月28日(火)に平成30年度吹田市教育研究大会を開催しました。本大会は、教職員と教育委員が一堂に会し、吹田市の教育の方向性を共通理解し、学びを深める場として平成19年度より始まりました。以降、形態を少しずつ変えながらも回を重ね、これまで続いている大会です。今年度も「今 吹田から 未来(あす)の力を ～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」をメインテーマとし、重点課題である「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」をサブテーマに据え、開会行事として教育委員のみなさまからメッセージをいただき、講演会では大阪教育大学大学院連合教職実践研究科教授の木原俊行先生に『『主体的・対話的で深い学び』の成立と充実』をテーマに御講演いただきました。



以下に教育委員メッセージと木原先生の講演の要旨を紹介します。

〔谷口教育長職務代理者 開会挨拶〕

次期学習指導要領では、未来を切り開く子供の育成があげられています。何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶか、そして何が出来るかが重要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。子供たちが、よりよく学ぶためには、まず先生方が学び続けることが大切ではないか、また、これからは各校園において、学びの文化を創造することが、より強く求められると考えています。

すべての子供たちが、ともに学ぶことに喜びを感じ、瞳を輝かせて学校や園で生活を送れるよう、本日参加されました皆様方におかれましては、今日の学びを各校園にお持ち帰りいただきまして、教育活動のさらなる充実に努めていただければありがたいと思います。

〔教育委員メッセージ〕

大谷委員

悔しいという気持ちは、高みをめざす行動をさせてくれるエネルギーになると考えています。様々な体験により、大きくたくましく、吹田の子供たちが成長してほしいと思っております。本日の学びが、吹田の子供たちに届きますよう期待しております。私も皆さんとご一緒に、チーム吹田として、子供たちのために頑張りますので、これからもよろしくお願いいたします。

和泉委員

素晴らしい吹田の学校力を生かし、今後も先生方が吹田の教育環境を豊かにするという想いで、地域の宝、将来を担う財産でもある子供たちを、温かく見守りながら力強く育ていけるよう、さらなるお力をいただけることをお願いいたします。

安達委員

AIではなく人間にしかできないこと、常に多くの他者とともに生活するという学校、そこで友達や先生との情緒的な関わり、そういうものを通じて、子供たちの感性や感情が育って、何かをしたいという気持ちが生まれる場、学校にはそんな場であってほしいなと思っています。正に先生方の仕事もAIではできないと感じています。吹田の子供たちをこれからもよろしくお願いいたします。

福田委員

21世紀はアジアの時代だというふうに言われています。言語も多様、文化も多様な中で相手を理解して、意見交換をして、互いにつながっていくための力の育成が、非常に大切になると思います。今日は私も先生方と一緒に勉強させていただきます。

〔原田教育長 閉会挨拶〕

本日は、ともに学ぶ場である「吹田市教育研究大会」において、今日的な教育課題や本市が目指す教育の方向について、各校園の代表のみなさんとともに今後の吹田の教育について考える貴重な時間を共有できたことを、大変嬉しく思います。講演の中で、子供たちが確かな学びを育てていくために必要なことを再認識できたのではないのでしょうか。

吹田市のすべての子供たちが、ともに学ぶことの喜びを感じ、輝く笑顔で学校・園での生活を送れるよう、学校・地域・家庭がしっかりとつながり、教師力、学校力、教育力をさらに高めていただきたいと思います。

【大阪教育大学大学院連合教職実践研究科 教授 木原先生 講演要旨】

木原先生からは、次期学習指導要領の中で示されている「主体的・対話的で深い学び」の在り方について、吹田市の学校における実際の取組も取り上げていただきながら、授業づくり・授業改善に繋がる、今後の方向性を示していただきました。

「先生の指示によってではなく、子供同士の声かけで学習活動に取り組めることが望ましく、仲間と学ぶことを大切にする態度を育てること」「学び・思考の足跡をノートに残すこと」「子供が楽しみながら、しっかり考えることができる学習課題の設定や教材開発を行うこと」など日常の授業において大切にすべきことについて、写真や実践例とともに具体的にご紹介くださいました。

「主体的な学び」には縦断的・横断的な複線型の授業が効果的であること、「対話的な学び」においてペア・グループ学習が重視されるのは、小さいサイズで語ることが子供にとって学びやすい環境や雰囲気を生み出すためであること、「深い学び」への近道は比較すること等、「主体的・対話的で深い学び」に向けたエッセンスをたくさん手にすることができました。また、これらの取組は中学校区(幼小中連携)によるアプローチが必要であるとお話もあり、小中一貫教育の大切さも再認識できました。



【研究大会について】

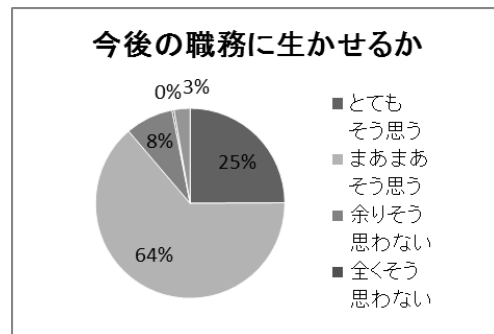
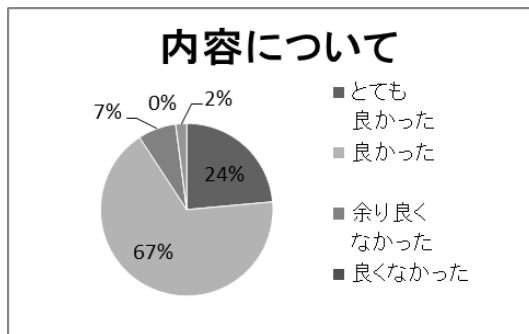
1. 教育研究大会参加者 384名 内訳

	幼稚園	小学校	中学校	合計
人数	23名	247名	114名	384名

2. アンケートについて

■ 回収数 293通 (回収率 76.3%)

■ 設問「教育研究大会の内容について」



項目	人数
とても良かった	69名
良かった	197人
余り良くなかった	21人
良くなかった	0人
無答	6人

項目	人数
とてもそう思う	73人
まあまあそう思う	187人
余りそう思わない	24人
全くそう思わない	1人
無答	8人

<参加者の声から>

- 主体的・対話的で深い学びの具体と、それを成立させるためのカリキュラムマネジメントについて学ぶことができました。今後の学校運営にすぐに生かせる内容でした。
- 日々、対話的な学びに取り組んでいる中で、もっと工夫次第で広げていけることを改めて教えていただきました。明日からの学びに生かしていきたいと思えます。
- 子供たちの深い学びのためには、教師自身がコミュニケーションをとり、協力することが大切だと感じました。
- 普段の教育活動の中で、これまで当たり前にしてきたことでも、私たち教師側の少しの努力とアイデアで子供の生きる力や学びを主体的に育むことができると感じました。
- 授業改善の必要性とそのためのポイント、カリキュラムマネジメントの実施に向けた他教科との連携の必要性について詳しく知ることができました。